炊きだしボランティア通信　vol37

2010，3月

炊きだし　３月１３日（土）晴れ　12:00～五橋公園

集まったホームレスの方は55人（女性2人）でした。調査では市内に150人ぐらいいるといわれているので、炊きだしに来るのは毎回その約3分の1です。（例えば10年来の付き合いになる西公園陸橋下ﾋﾞﾆｰﾙﾊｳｽのOさんは、ご本人の考えで炊きだしには一度も来たことがありません。）午前中の準備の間は小雨模様でしたが、いざ出発という時に空が晴れ渡って皆から歓声が上がりました本校から今月は生徒6人が参加しました。また卒業生の1名参加も定着した感じです.そして今回は、「4月からD学院中学校に入学します。」という子が親子で参加しているのにはじめて出会い、ビックリするやら、うれしかったです。

～参加生徒感想から～

○久しぶりに炊き出しボランティアに参加したのでちゃんとできるか不安になりましたが、自分から「何かお手伝いできることはありませんか？」と聞いて進んで手伝うことができたのでよかったです。今までは与えられたままやることが多かったので、少し成長できたのだと実感できて嬉しかったです。次回も積極的に参加したいです。（2年）

○今回で3回目ですが、初めて衣類の仕事をしました。大変だったのですが、よい経験ができ、楽しかったです。また参加したいと思います。（2年）

○楽しみながら活動することができました。ホームレスの方々の役に立ててうれしかったし、もっと困っている人たちを助けたいと思いました。（2年）

○久しぶりでしたがだんだん慣れてきて自分の仕事をしているときが楽しかったです。また皆と楽しく一生懸命できた上、ホームレスの方が喜んでくれたことがうれしかったです。（2年）

献品　今月も小学校の保護者の方からからたくさんの衣類や食品をお預かりし届けました。
学院の正面玄関にわざわざ届けてくださった方もいました。
　ボランティアの形ではありますが、私が炊き出し活動に関わってやや長くなりました。この活動の目的は大きく二つあると思います。ひとつはもちろん、「事情あって路上の方」を可能な立場から自立や社会復帰の支援すること。もうひとつは、孤立している「心」に社会とのつながりを届けるメッセンジャーとしての役目です。カトリック正平協の炊き出しは100％献品と献金で賄われています。それらにはくださった方たちの心が込められています。ボランティアはそれを運び、「路上の方」はそれによって社会と重要なつながりを持っているのだと思います。
　このボランティア活動に参加する生徒は、大忙しの準備の中で自分から動かなければならないことを学び、また感謝されることの喜びを心底から味わいます。感受性豊かな時期のこの体験が心を育て日常の身近なボランティアや自分の生き方につながってほしいなと願っています。
　この活動をしていて、「先生、今度の炊き出しいつですか？　行ってもいいですか？」と、学校の廊下で生徒に呼び止められるときほど幸せな瞬間はありません。……やめられるわけがない。

今月の夜回りは参加できませんでした。

４月７日(水)夜回り(１８時～)。４月１０日(土)炊き出し(９時～準備)

ご参加体験希望や献品がありましたらご協力お願いします。

（　記　高橋　覚　）

【2010/03/27 14:25】